

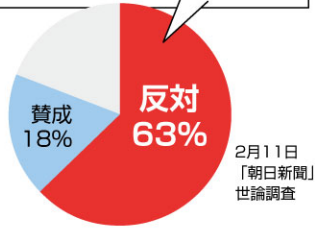
「選挙」を「独裁の道具」に

「出直し市長選挙」によって、議会も、反対勢力も押しつぶさうという、そのあまりにも乱暴な手法に、市民の大きな怒りが呼び起こされています。

橋下市長は、「再選されても議会が動かなければ再々選挙にでる」「自分が勝てば、法定協議会から反対派は出て行ってもらう」「反対派は入ってもらうが、維新過半数の構成に変える」などと、口を開くたびに次々と話を変えながら、いっかんして「議会つぶし」の狙いを隠しません。

議会での反対にたいして、理をつくって議論するのでなく、乱暴勝手に選挙に持ち込み、勝てば、「自分が民意」として、みずからの思惑を押しつける。これは「選挙」を「独裁の道具」に仕立てるものにほかなりません。

都構想に反対する自民、民主、共産の議員を法定協議会から外すと主張していることに



市民のくらしを守る 市長の責任を投げ捨て

橋下市長の「出直し市長選挙」論議のなかには、260万市民のくらしを守るという視点は一切ありません。

いま市民の多くはくらしの苦境にあえいでいます。そのうえ4月から消費税増税が待ち受けます。どう政治的立場があろうとも、大阪市長として第一義にやるべきは、これらの市民生活を守るための対策であるはずす。

ところが、橋下市長は、市民生活にかかわる新年度予算案を論議するもっとも大事な時期に、その

責任を投げだし、税金6億円もムダにつかう「出直し市長選挙」を強行しようとしているのです。仮に橋下氏が当選しても、その任期は来年秋までで変わりません。

むきだしの独裁的野望

これらのどこに「大義」があるのでしょうか。あるのは、ただ自分の政治的思惑をおすために、「民意」の名で反対勢力や議会の抵抗を押しつぶす——まさに市民に敵対する独裁的な野望ではありませんか。

橋下市長野望 VS 市民共同

いま橋下市長のこうした野望を許すのか、それとも市民共同の力で打ち破るのが大きく問われています。それは「大阪都」をストップさせるとともに、大阪と日本の民主主義を守るうえで、きわめて重大な岐路になります。橋下市長の暴走を、一步一步追い詰めてきたのは、大阪における「維新政治ノー」をかかげた共同の力でした。

堺市長選挙



竹山市長が「維新」候補に圧勝した原動力は、さまざまな立場の違い、政党の垣根などをこえて結集した「オール堺市民」の力でした。岸和田市長選挙でも、この力が発揮されました。

岸和田市長選挙



泉北高速鉄道売却案



府議会では「泉北高速鉄道(株)売却案」に対し、「維新の会」からも4人が反対票を投じて否決。「維新の会」が過半数割れする事態が生まれました。

「慰安婦」問題



橋下市長の「慰安婦」問題での暴言に対する怒りの世論と行動が大きく広がっています。

くらし切り捨て



くらし切り捨てと市民病院つぶし、「なんでも民営化」方針、市職員への「思想調査」にたいして、民主団体はもとより連合町会などからも、市民的な反撃が展開されてきました。このなかで地下鉄・市バス民営化案は三たび成立させられず、府大・市大統合関連案や、市立幼稚園全園廃止・民営化案にもストップがかけられています。

「出直し市長選挙」の形がどうなろうと、橋下市長の独裁的野望を許さず、「大阪都ストップ・維新政治打破」をかかげ、もっとも幅広い共同を組み、それを発展させ、彼らにもっとも手きびしい打撃を与えようではありませんか。そのために必要な、ありとあらゆる知恵と力を総結集して、たたかいに臨みましょう。そして、これを土台に、文字通り市民のくらしを守り、民意を生かす、まともな大阪市政へと踏み出そうではありませんか。

日本共産党は、「大阪都ストップ・維新政治打破」の一点で一致するすべての政党、団体、個人のみなさんとさまざまな立場の違い、これまでの経緯をのりこえ、胸襟を開いて話し合い、共同の発展と勝利へ、全力をつくします。

「大阪都Q&A」パンフレット

「明るい会」「よくする会」の「大阪都Q&A」パンフレットを活用し、学習・宣伝にとりくみましょう。



「しんぶん赤旗」や「大阪民主新報」をぜひお読みください



しんぶん赤旗 日刊紙 ●月3,400円 日曜版 ●月800円



大阪民主新報 毎日曜日発行 ●月600円

募金にご協力をお願いします

日本共産党はみなさんの力でささえられています。企業団体献金をいっさいうけとらないので、誰にたいしてもハッキリものがいえます。政党助成金もいっかんしてうけとっていません。

郵便振替 00920-8-97104
加入者 日本共産党大阪府委員会
(通信欄に「募金」と記し、氏名、住所、職業を明記してください)